

本がおりなす憧憬の世界

八戸工業高等専門学校 産業システム工学科 環境都市・建築デザインコース 准教授 杉田 尚男

昔人は、自己研鑽すること、自分を磨くことを「沈潜する」と表現したとのこと。とてもいい言葉だと思います。忙しい毎日、SNS など膨大な情報に流されるのではなく、「沈潜する」時間を持ち、本を読んで主人公と一对一、あるいは自分自身と対話する。そこに現実の喧噪はありません。まさに心の中に沈潜すると、今まで見えなかった情景や聞こえなかったかすかな音や、わずかな変化に気がついたり、新たな発見や出会いがある。時間をさかのぼり、いつか見た世界、憧憬の世界が感動とともに広がり今まで気がつかなかった自分の無意識の世界、内面の世界を改めて発見する喜びがでてくるでしょう。毎日、30 分「沈潜する時間」を作るだけで生活が大きく変わるのではないのでしょうか。



海に見える理髪店

萩原 浩

早くして生き別れとなった父と息子、店主と客としてそうと気付きながら名乗りあうことの出来ない哀切で胸がいっぱいになる。しかしこのような再会によって今迄の重荷が一つ下ろせたのではないか。数年前に中学生の娘が急逝。悲嘆に暮れる日々を過ごしてきた夫婦が娘に代わり、成人式に替え玉出席しようと奮闘する「成人式」。大人のための“泣ける”短編小説集。



宝島

真藤 順丈

英雄を失った島に新たな魂が立ち上がる。固い絆で結ばれた三人の幼馴染み。グスク、レイ、ヤマコ。生きるとは走る、抗うこと、そして想い続けることだった。少年少女は警官になり、教師になり、テロリストになり、同じ夢に向かった。あまりにもメッセージ性が強すぎの沖縄叙事詩です。



指の骨

高橋 弘希

太平洋戦争中、南方戦線で負傷した一等兵の私は、激戦の島に建つ臨時第三野戦病院に収容された。最前線に開いた空白のような日々。私は、現地民から不足する食料の調達を試み、病死した戦友真田の指の骨を形見に預かる。戦争という異常事態の中でうごめく人間の心理、リアリティあふれる作品です。



緑十字機 決死の飛行

岡部 英一

日本海軍の一式陸上攻撃機の命がけの飛行は、第二次世界大戦のラストミッションでもあった。マッカーサーの命令で機体を白く塗り、緑十字マークを画き、降伏軍使を輸送した緑十字機。そして、アメリカ領フィリピンのマニラより帰還した緑十字機の飛行は深夜の海岸（静岡県磐田市鮫島）への緊急胴体着陸というクライマックスを迎えます。絶対絶命のピンチ！いままで繋がらなかった玉音放送以降のできごとが、この本によって繋がりました。



ベルリンは晴れているか

深緑 野分

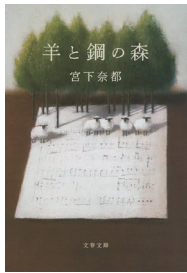
1945 年ドイツが戦争に敗れ米ソ英仏の 4 カ国統治下におかれたベルリン。ソ連と西側諸国が対立しつつある状況下で、ドイツ人少女アウグステの恩人にあたる男が、ソ連領域で米国製の歯磨き粉に含まれた毒により不審な死を遂げる。彼の甥に訃報を伝えるべく旅立つ。しかしなぜか陽気な泥棒を道連れにする羽目になる。



教場

長岡 弘樹

警察学校を舞台にした生徒同士の確執や、生徒と教官のやりとりが、ミステリーに仕上がっています。風間教官と新入生たちのやりとりは、緊張感たっぷりです。こんな教官がいたら学校に行けなくなってしまうですね。本書は場面転換が頻繁なので、短編で構成されている連作短編集のような印象を持つ方もいるかもしれません。教場 2 も必読です。



羊と鋼の森

宮下 奈都

高校生の時、偶然ピアノ調律師の板鳥と出会って以来、調律に魅せられた外村は、念願の調律師として働き始める。ピアノを愛する姉妹や先輩、恩師との交流を通じて、成長していく青年の姿を、温かく静謐な筆致で綴った感動作。昨年、テレビ放映されていた日本で唯一ピアノハンマーを専門で作っている「今出川ハンマー製作所」を思い出しました。STEINWAY & SONSのピアノにも使われているそうです。



蜜蜂と遠雷

恩田 陸

恩田陸さんは郷愁を誘う情景描写を得意としています。どの作品を読んでもどこか胸が切なくなるような懐かしさを覚えます。ピアノコンクールを題材にした青春群像小説となると、ピアノに興味がない人にはハードルが高いと思いますが、でもそこが恩田さんのすばらしい所で、誰が読んでも最高に面白い小説に仕上がっています。恩田ワールドにおける常野（とこの）物語シリーズ3冊もおすすめですが、恩田さん独特の鋭い描写があるので、決して夜に読んではいけません。



そして、バトンは渡された

瀬尾 まいこ

17歳の女子高生なのだが、彼女には父親が3人、母親が2人いる。これまでに苗字は3回、家族の形態は7回も変わってきた。どうしてそんなことになったのか？気になる経緯は、現在の暮らしぶりの合間にぽつぽつと回想されます。この本の構成技術に圧倒されました。



月光は大河に映えて 激動の昭和を生きた水の科学者・安藝皎一

高崎 哲郎

偉大な河川学者の評伝・決定版！官僚、東大教授、経済理論家、アジアを愛した国際人、著述家、登山家。昭和が生んだ天才級の知識人。その知性と行動力、そのエネルギーの源はなんでしょうか。



後藤新平 日本の羅針盤となった男

山岡 淳一郎

日本はどこに向かうべきか？激動の時代こそ後藤に学べ！台湾民政長官、満鉄総裁、通信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市第7代市長を歴任し、関東大震災後の壮大な帝都復興計画を立案した不世出の政治家。近代国家としての日本の礎を築いた傑人の生涯を追う本格評伝。同じ時代に生きた大蔵大臣としての評価が高い、高橋是清も忘れてはいけません。最終的に6億円余りの復興計画に落ち着きましたが、大正11年の一般会計予算が約14億円だったことを考えると、この計画がどれほど破格のものであったかが分ります。



東海道新幹線と首都高 1964 東京オリンピックに始まる 50 年の軌跡

土木学会

1964 東京オリンピックのように、皆で共有できる一つの大きな目標を掲げ、それに向かって力を合わせることが、土木工学にとって非常に大事なことはないかと感じました。東京都内を環状線で結ぶという発想は、前述した後藤新平先生の案です。

八戸工業高等専門学校
産業システム工学科 環境都市・建築デザインコース 准教授

すぎた ひさお
杉田 尚男

専門：橋梁工学、構造工学
約30年間、地震動の性質と橋構造物被害の関係を探求し、地震災害軽減に結びつけるための研究を行っています。
元山形県立産業技術短期大学校非常勤講師・元八戸市立高等看護学院非常勤講師・福島大学大学院共生システム理工学研究科客員准教授



ハブブックセンター
HACHINOHE BOOK CENTER

〒031-0033 青森県八戸市六日町 16-2 Garden Terrace 1F
TEL 0178-20-8368 web <https://8book.jp/>